

# みんなの居場所

## 裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年10月3日(金)

雜感

日勤生活で何もな  
い時間が長く続く  
と、その「慢心が生  
じ、*ミレ*、な発生し  
て、やがてその背  
景に共通するのは、  
感謝の気持ちを持  
てないところでは  
ないだろうか。私も  
多くの*ミレ*を重ね  
てきた。改めて振り返  
ると、ある行動があ  
った。「卑屈」「利  
己主義」「自己中  
心」等々。そして「感謝  
を忘れている」。  
これを忘れている。教  
師になって数年は*ミレ*  
スの連発だった。あ  
の頃、もう少し「真  
摯な」「謙虚な」「感  
謝の心を持ち、頑  
張っていたら、もっ  
と*ミレ*な教師になっ  
ていたのではないか  
かと思う。スキルを  
上げようと願った  
らば、「真摯な」「謙  
虚な」「感謝の心」  
を忘れているな。  
特に若い時期の  
だ。若くは爆発的エ  
ネルギーを持ってい  
る、そのエネルギー  
をポテンシャル利用  
する上で飛躍的な  
成長を遂げる。若く  
真摯な、頑張りな  
いもの、愚痴や、焦  
り、腐り、強張

雜感  
S  
柿  
S

この季節、あちこちで柿の木を見かけますが、柿は私の好物の一つです。果物は何でも好きです。でも私にとって柿だけは特別な存在です。というより、平成7年11月に特別な存在になりました。

私の父の実家には一本の柿の木があり、その木は私の父が子どもの頃からあやこいことでも、もつ随分弱っていました。父がはよく悪態をして、その木に縄で縛られていたという話を聞いていました。しかし、祖父が病氣になって体調が優れなくなつてから、柿があまりならなくなつてしまつたのです。平成3年頃からは全く実がならなくなつてしまいました。祖父が最後の入院をしたのは、平成7年8月のことでしたが、その頃はもう柿の話よりも、祖父が元気になることを願つただけでした。祖父も病魔には勝てず、平成7年11月5日に永眠しました。そして、祖父の出棺の日、棺の上には一つの柿がのせてありました。不思議思つて、叔父に聞いてみると、「柿のなつとつたけん、じいちゃんにやつたたい。」

このこと、不思議なこともあるものですね。今までになかった柿がその年にだけなるんですから。そして葬儀の際、お坊さんがこんな話をされました。「久、私の祖父の名前、ひびく様は、頑固なまへうらい真面目に、誠実に生きてられました。この柿を見てると、久様に柿核が下さった勲章のように思えます。」「私はその話を聞きながら、涙が止まらなかった。それ以来、柿を見ると祖父を思いだし、食べる時はじっくり味わいながら食べます。秋の味覚、柿には、私はそんな思いがあります。皆さんにはこんなことはあいませんか？　ちょっとしたまっかげから大切な存在になった物ってありませんか？」

たまに祖父の墓参りに行くのですが、そこではのんびりした時間が流れていきます。心が満たされた時間になります。そして、祖父から尋ねられます。「愚問は言っていないか？」「卑屈になっていないか？」「前に進んでいるか？」「人様のために仕事をしているか？」「そして最後に一言「真摯に謙虚に感謝して頑張りなさい。」秋は私にとってそんな季節です。皆さんの秋はどんな秋でしょうか。充実や幸せに満たないか。

シリーズ「自分を語る」#39

ギブスを胴体に巻いた後は、乾燥度に伴い、徐々に頭を下げ始めます。今まで寝ていたのですから、急に立ち上がりかるとめまいがするのだそうです。ジワジワ頭を上げていき、よいよ4週間ぶりに自分の足で立ちます。緊張しましたねえ、この時は、俺は本当に立てるのかと。まさに、「アルブスの少女ハイジ」で、ウラウがアルブスの山で自分の足で立ちあがるシーンのようでした？（と私は思っています）。私はベッドから降りて、自分の足に体重をかけてみました。この時はやはりめまいではなく、感動で頭がうらうらしていました。（あつしが立った！ あつしが立ったとハイジの声が聞こえました。）

私が立てるのを確認した後、お医者様は小刀を準備して私の所へやってきました。「おい、今度は何が始まるか」と思っているや、赤鉛筆でキフスの表面に印を書き始めました。これは、胃への圧迫を軽減するために穴を開けるための印だったのです。はさみで切りこみを入れ、そこから小刀で直接1・5センチほどの穴を開けることに成功しました。この穴のお陰で、深呼吸しても圧迫を感じなくなりました。先生は「にはは、乾燥させておいで」と言い残し、その場を去って行かれました。私は立ったままだったので、「えっ、このままで乾燥？」と少々心配になって、看護師さんに聞いてみました。「消灯時間頃まででです。私は真面目に、それから時間印は立っていました。すると、ある看護師さんが「もういいですよ、一時間が乾燥させたための理想的時間です。だいたい一時間立てる人はいないんだとね。」「えっ、一時間立たなくてよかったの?」私の反応が面白かったのか、私とよく話す看護師さんが冗談で「消灯時間まで」と言ったりしく、私は真面目に立っていた訳です。まさに、教室で立たされる子どもの気持ちでした。てな訳でキフスを手に入れた私は、あちこち動回り始めました。駆け幹キフスを善い私は、それまで行けなかった病院中の施設を見学して回りました。手衛室を覗いて頂き、「ここがぁ……。」と、しみじみ思いました。

（この後、正月を病院で迎えることになる、良い経験となりました。大晦日はインスタン・トのそば（緑のタヌキ）で年越しし、平成4年の元旦は病室で迎えました。元旦はの食は無く、午前十一時頃おせち風の料理が届きます。取り敢えず正月気分が味わえます。私は8人部屋でしたが、殆どこの患者さんは外泊許可ももらえて正月は我が家という人が多く、私が居た部屋には3人しか残っていませんでした。しかも若い者はかりです。一人多く私が居た部屋には3人しか残っていませんでした。しかも若い者はかりです。一人は股関節骨折、一人は膝のけがでした。その3人で記念写真ととり、暇な一日を過ごしました。取り敢えず午後の時間は家族が来くれましたが、何とモ淋しい気分でした。でも、看護師さん達も気を遣ってなのか、元旦は暇なのか、私達の部屋によく来てくれて雑談に付き合ってくれていました。

さて、駆幹士スの期間は何にそんなに長くありません。普通に動けることやレントゲン写真が正常であることが確認できれば、次の段階に入ります。次は硬性「ルisset」を装着です。ギプス装着時に型玉採ってあるので、それを基にして「ルisset」が作られました。装着するためにギプスを取る必要があります。経験がある人は分かると思うのですが、ギプスを取る時は電動のこきりやみだいなので切れますよね。先生が「痛かったら言ってもいい👉」と冗談で言うものだから、痛くはないものの、緊張しました。(´▽｀)